

# 四日市市幼児教育センター

令和6年6月



## センターだより



### 夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども



四日市市幼児教育センターHP

連絡先 059-333-6002

## 6月8日(土)「就学前教育・保育推進フォーラム」を開催しました。

### テーマ「こどもまんなか社会をつくる保育者の笑顔の花を咲かせよう」

「就学前教育・保育推進フォーラム」は、「こどもまんなか社会をつくる保育者の笑顔の花を咲かせよう」をテーマに、こども家庭庁成育局保育政策課教育・保育専門官 鎮目健太氏、そして三重大学教育学部教授当センター最高顧問富田昌平氏を対談者としてお招きしました。

本フォーラムの開会式では、主催代表として、四日市市こども未来部西村部長挨拶、四日市市教育長からの祝辞ビデオを上映、「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」発刊を記念して、検討にあたった「四日市市幼児教育・保育研究協議会」委員を紹介しました。

今後「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」の活用や実践の交流につなげていけるよう当センターとして考えていきたいと思えます。

基調講演では、「保育行政の動向と課題」をテーマにこども家庭庁成育局保育政策課教育・保育専門官 鎮目健太氏からご講演いただきました。



「こどもまんなか社会」を実現するために、子どもに関わる全ての大人のウェルビーイングな生き方についての視点を持ち、保育行政の本質について、「こども誰でも通園制度」「配置改善」など具体的な施策を通し、子どもの育ちを豊かに保障する就学前教育・保育施設での専門性への洞察は、のちの対談へと深くつながっていきました。

対談では、「就学前教育・保育の質向上をめざして」をテーマに、当センター所長の藤原が進行しました。鎮目氏、富田氏より、現場の保育者、若い世代に注目し、幼児教育センターがハブとして、咀嚼できるディスカッションの場となり、自分の中に落とせる就学前教育・保育の情報発信をし、保育者間がつながるセンターの位置づけを紹介され、展望や課題が論じられました。参加者からの質問にも答えながら、こどもの権利が保障される社会のために就学前教育・保育の意義について議論を深め、大人がつながったまんなかにこどもがいる、その大人のつながりの場づくりの重要性が語られました。

今回は、日頃から当センターの活動にご支援いただいている教育・保育関係者の方々、関係機関の方々や他市の方々など、教育・保育に関して関心を持たれている方々に多数ご参加いただき集合参加、オンライン配信参加合わせて約190名の参加がありました。

当センターでは今後も就学前教育・保育の資質向上をめざして、明日の子どもたちの教育・保育の豊かな実践につながるような活動を企画してまいります。

## アンケートより



現場の職員として、自分にできることは、保護者の方との積極的なコミュニケーションで、悩みなどを聞いていくことや、業務の負担軽減について見直していくこと、保育の仕事の魅力を職業体験や実習生に伝えていくことだと思った。



こども家庭庁も、子どもたちのためにという部分では考えていることは同じで、そこをどのように自分事として捉えられるかが大切だと思います。

子どもまんなか社会とは、子どもまんなかだが、子どもを育てるのは大人なので、その大人も大事にしないといけないとの話に、自分も共感しました。保育者である私たちが親御さんと少しでも子どもの悩みや、子どもの成長など、喜びを共感して子育てが楽しくなるような声掛けが出来たらいいなと思い、実践していきたいと思います。

日々、保育をする中で魅力を忘れがちだが、今回の研修で保育者の魅力として、「あそびを通して子どもと関われること」だと改めて気付くことができた。毎日子どもたちと関わる中で、子どもたちと一緒に遊びを楽しんだり、保護者と子どもたちの成長を喜んだりしていきたいと感じた。

保育士としてのありかたについて今一度考える機会になりました。職員がどんなことでも言い合い、いろいろなことにチャレンジしていけるような、雰囲気作りに力を入れていきたい。



保護者の方たちが安心して親業ができるサポートが必要と話され、そのサポートをできるのは保護者や子どもたちの近くにいる私たちであると感じた。子育ての喜び、楽しさを感じてもらえるように保護者との対話をさらに大切に、園で楽しめるようなことを職員間で話し合っていけたらいいなと感じた。

「子どもを中心に考える」ということが大切なことで一本化してきたということがよくわかった。また、未就園児の保護者の不安感は子育ての孤立であり、保護者支援を大切にしながら子育てのしやすい社会を作っていくことが大事だと感じた。保育者自身が楽しみながら保育ができる環境、即戦力を求めるのではなく失敗をしながらも楽しみ相談できる場があること、保育の振り返りは今日したことを明日の保育に向かって振り返ることで楽しむことを大事にしていきたい。また、理想を語り合える場であり続けたいと思いました。

こども家庭庁、こどもまんなか社会、こども大綱など、いま大切にしていきたいこととして、知ってはいるけど、それってどういうこと？と思っていたことをわかりやすく、改めて学ぶ機会になった。

難しく感じていたことも、社会全体で子どもを育てていくことと改めて感じ、そのためには私たち保育者も楽しく保育を行い、発信をしていくことの大切さを感じた。

また対談の中での、保育者が真面目化しているという点でも、自分の保育を考えさせられた。

これを伝えたいということが先行して、子どもたちと自ら楽しむということがおきざりになっていなかったか、また職員間でも確認しあい、楽しく保育をできる環境作りをしていきたいと感じた。

また、親育ちという点でも、保護者とともに保育を考えていく保育者でありたい。みんなが自信を持って保育子育てしていけるように考えていきたいと感じた。